自民清風会　会長：山崎　憲伸　印

調査研究（研修）視察報告書

報告者：三浦　康宏

視　察　日	平成２５年５月１０日（金）
視 察 内 容	火葬場「ゆうしお」について
視　察　者	野村康治、山崎泰信、三浦康宏

＜泉大津市の概要＞

泉大津市は大阪府の中央よりやや西側に位置し、古くから小津の柏や大津の浦等名勝の地として知られた。地場産業の繊維産業は、江戸時代に庶民の衣料として広く利用されはじめた綿織物に始まり、現在は全国シェアの 98%を占める毛布などニット・毛織物が中心。また特定重要港湾の堺泉北港の商港機能を担う港湾都市としても発展し、大阪市のベッドタウン機能も拡充している。今年市制施行 70 周年となる記念すべき節目の年を迎える。

面積：13.26ｋ㎡　人口：77,548 人

＜泉大津市 新火葬場「ゆうしお」建設までの経緯＞

泉大津市営火葬場は昭和 42 年に竣工し、昭和 59 年に人体炉 4 基、動物炉 1 基の全面改修に至るが、竣工後 40 年が経過し、玄関部の庇や建物天井部分に老朽化による傷みも見られ、また火葬炉については改修後 23 年が経過し、毎年耐火レンガの取替え・炉内台車の補修等、部分的な補修は実施しているものの、火葬炉を含め施設全体の老朽化が進んでいた。更に高齢化の進行に伴う火葬件数の増加に伴い、円滑な運営が困難になってきていた。この為、適正な火葬業務を遂行することと併せて、周辺環境との調和と環境汚染防止に配慮した新火葬場の建設が求められた。

＜泉大津市 新火葬場「ゆうしお」の特徴＞

進入路脇に控えめに表示された、市民公募により名付けられた「ゆうしお」という名称の告知以外に、ここが火葬場であることを示す看板も掲示も一切ない。

外観も、壁は全面ガラス張りとなっており、それらを囲む緑の木々が映り、一見すると市民会館等の文化施設に見える。

それらは全て市民の要望であり、火葬場という感じを出さない為の配慮が至るところに施されている。

また施設内にも利用者への気遣いが形となって表わされており、例えば炉前ホールと火葬炉、収骨室等の導線が、お別れと骨揚げが重ならないように配置されている。

同様に「ゆうしお」に訪れ、後にする導線も一方通行となっており、車の流れも滞らぬよう設計されている。

あと特徴的な点としては、エントランスホールにソファ等の応接スペースは設けられているが、それ以外には控室や待機する場所は一切無い。これは泉大津市が面積13.26ｋ㎡の臨海都市であり、その臨海ゾーンに「ゆうしお」は火葬、収骨に特化した施設として建設され、利用者は主に市内に３社ある葬儀業者がバスで運び、火葬の間はその葬祭場や飲食店等に移動し、骨揚げの時にまた火葬場へ戻るという形態が常識化しており、実際にはエントランスホールさえも使用する事なく、スムーズな火葬の流れができあがっている。

また最新の火葬炉設備を取り入れた事により、火葬時間の大幅な短縮も達成され、より効率的な火葬場運営を実現している。

そんな中、現在の課題を伺ったところ、その火葬場らしからぬ外観の維持とのご回答であった。施設を覆うガラスの清掃、周囲の草木の手入れ等が一番の悩みの種であるとの説明に、泉大津市営新火葬場「ゆうしお」の充実ぶりが垣間見えた。

〔感想・岡崎市への反映〕

平成 20 年 3 月に基本計画が作成され、23 年 6 月 1 日に供用開始となった泉大津市の新火葬場は、「ゆうしお」という名称から市民の公募により選定をしており、建物の立地から外観、施設への出入りに至るまで、市民の声、要望を重視し、実際にそれらを多く取り入れた形で建設されている。

本市も平成 23 年に基本計画を策定し、28 年度の供用開始を目指して火葬場整備運営事業を進めているが、ハード面だけでなくソフト面も含め、泉大津市のような他市の最新事例も参考に、時代や市民のニーズを捉えた、より市民に喜ばれる施設の完成に向けての尽力を促していきたい。

会派会長：山崎憲伸㊞

調査研究（研修）視察報告書

報告者：山崎泰信

視　察　日	平成２５年５月１１日(土曜日)
視 察 内 容	エコパークあぼしについて
視　察　者	野村康治、山崎泰信、三浦康宏

《姫路市の概要》

　兵庫県の西部、播磨地方の中心都である。播磨平野の中西部に位置し、市域の中東部を市川が、中部を船場川や野田川、中西部を夢前川や大津茂川が、西端が揖保川が、それぞれ南流して播磨灘に注ぐ。播磨灘沖には家島諸島がある。

　県内第２位商工業と人口を擁する都市であり、播磨地方の中心都市である。観光事業では、国宝であり世界遺産でもある姫路城や、西の比叡山と呼ばれる書写山圓教寺、三大荒神興の一つ灘のけんか祭りが有名で、国内は、勿論、海外からの観光客も多い。

　面積５３４，４４㎢、人口２２７，５９人、

【総合計画の策定状況】

策定時期、２００８、年計画期間、２００９～２０２０年

将来都市像

生きがいと魅力ある住みよい都市姫路

主要プロジェクト

都心部まちづくり構想(０６年度～)

行財政改革プラン(１０～１４年度)

生涯現役プロジェクト(０６年度～)

キャスティ２１計画(８９～)

姫路城大天守保存修理事業(０９～１４年度)

≪エコパークあぼし≫

施設について

日々排出されるごみの安全、安定処理と循環型社会形成の拠点として、平成２２年４月１日に[エコパークあぼし]がオープンした。

[エコパークあぼし]では、積極的なバイオマス発電を導入したごみ処理施設、ごみののリサイクルを図る再資源化施設のほか、ごみ、環境問題を楽

しく学び、体験することができる環境学習センターを整備しており、これらの施設を見学できます。
また、ごみ焼却熱を利用した温水プールなど備えた健康増進センター、さらには広大なグランドゴルフ場を整備し、人と環境に優しい未来都市空間を創出しています。

施設概要
施設名称　　エコパークあぼし
所在地　　兵庫県姫路市網干区網干浜４番１
敷地面積　　約１５万㎡

《環境啓発事業について》
環境啓発施設
　エコパークあぼしの特徴は、ごみの処理だけでなく、環境学習センターという環境啓発施設を併設し、ごみ処理施設、再資源化施設と合わせて、環境併発事業にも力点を置いている。
　環境学習センターの概要は次の通り。

展示スペース
・地球誕生から未来の地球の姿、現在の地球環境の問題などについて映像や、図解を用いて分かりやすく展示。
・毎日の暮らしの中でできる工夫やアイデアのほか、実際に行われているリサイクルなどの取り組みを紹介。

自転車再生工房
・不用品として回収された自転車や、自転車部品をリサイクルした製品を製作。

リサイクルショップ
・環境学習センター内の再生工房でリサイクルされた製品を販売。

家具再生工房
・大型ごみとして回収された、タンス、机などの木製家具を、新たな家具や木製製品として再生。

カブトムシホール
・街路樹など剪定した時に回収される木の枝を、チップにして床に敷き詰め、カブトムシを育てている。カブトムシ専用の飼育施設。

ガラス工房
・家庭内から出る空き瓶などのガラスを利用してガラス作品を制作。

多目的工房

・リサイクルを目的とする活動団体が、再生活動ができる工房。

《課題と施策への反映》

課題

・年間来場者数が二万人であるが、その大半は小学生による社会見学であり、幅広い年代の市民を誘導するためのＰＲが必要。

・わかりやすく、魅力ある展示物への改善。

・市民活動団体の積極的な活用。

施策への反映

・岡崎市でも、自転車や家具の再生、ガラス工房をリサイクルプラザで行っており、毎月第四日曜日にはリサイクルの日として、自転車や家具の販売を行ってはいるが、エコパークあぼしのように再生過程を広く公開していないし、また展示スペースのような環境を問題をわかりやすく解説施設もない。今後、新たな環境啓発施設を造る必要はないが、既存施設を有効に活用して、市民の環境意識の向上を図るような場が必要と感じた。